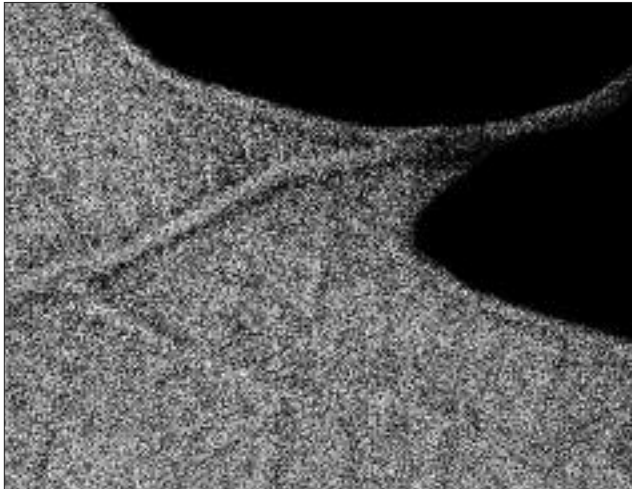


9-E アベマキ(栲)の巨木 ブナ科コナラ属 Quercus acutissima

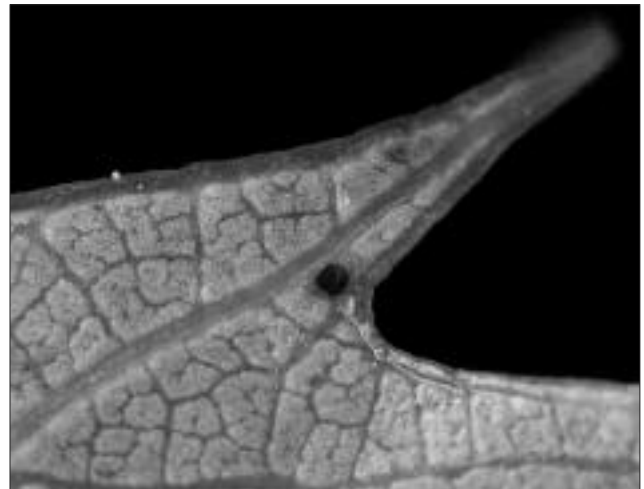
■アベマキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね7m以上の単幹樹、同等評価のアベマキの巨木。
- B 幹周おおむね4~7mの単幹樹、同等評価のアベマキの巨木。
- C B評価以下のアベマキの巨木。

※アベマキとクヌギは近似種で、アベマキの幹はコルク質が多いが、巨木になると区別がつきにくい。葉の裏面が有毛がアベマキで無毛がクヌギ。



アベマキの葉裏有毛



クヌギの葉裏無毛

■主なアベマキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	釜井の大マキ様 写真 AM-001	M7.3m(上部 0.6m 2011)	12m	岐阜県恵那市串原 1929-101	市
B	上立杭のアベマキ 写真 AM-002	M5.1m(1.3m 2012)	28m	兵庫県篠山市今田町上立杭字釜ノ坪	県
B	口大屋の大アベマキ 写真 AM-003	M5.02m(1.3m 2012)	20m	兵庫県養父市大屋町中字法仙地	国
B	上熊谷の大マキ 写真 AM-004	5.3m	25m	岡山県新見市上熊谷	なし
B	疫病様のマキ 写真 AM-005	M5.03m(1.3m 2015)	25m	岡山県岡山市北区杉谷 746 厄神宮	市
B	永野天神社のアベマキ 写真 AM-006	5.2m	30m	広島県神石郡神石高原町	なし
B	日向のアベマキ 写真 AM-007	4.8m	30m	山形県東置賜郡高島町	県
B	湯木のアベマキ 写真 AM-008	5.3m	30m	広島県庄原市口和町湯木	町
C	大將軍神社のアベマキ 写真 AM-009	3.4m	20m	香川県綾歌郡綾川町西分字浦田乙	なし
C	城山八幡宮の連理のアベマキ 写真 AM-010	3.53m	15m	愛知県名古屋市千種区城山町	なし



写真 AM-001
 日本一のアベマキ
かまい
 釜井の大マキ様

「釜井の大マキ様」は、昭和46年に奥矢作湖に沈んだ釜井集落の山神様である。恵那市串原は愛知県との県境に位置し、大マキ様を訪れる人はほとんどいない。矢作第一ダムができて、人里離れた僻地になってしまった。現在は、湖岸道路沿いにある釜井公園から、山道を登った尾根筋に立っている。途中に石仏堂や墓所があり、かろうじて釜井の人々の歴史を感じさせる遺構が残っている。道は荒れ、大マキ様は忘れられた存在になっているようだ。(下写真・樹下の山神様石碑)



写真 AM-002
かみたちくい おお
 上立杭の大アベマキ

樹形が扇形で訛って「おみの木」とも呼ばれ、地元では稲荷様として祀られている。上部で大きく分岐する樹形で、手前の幹部は朽ちているが、背後の幹部は健在で、この幹が6mで3分岐し、大きく枝葉を広げている。

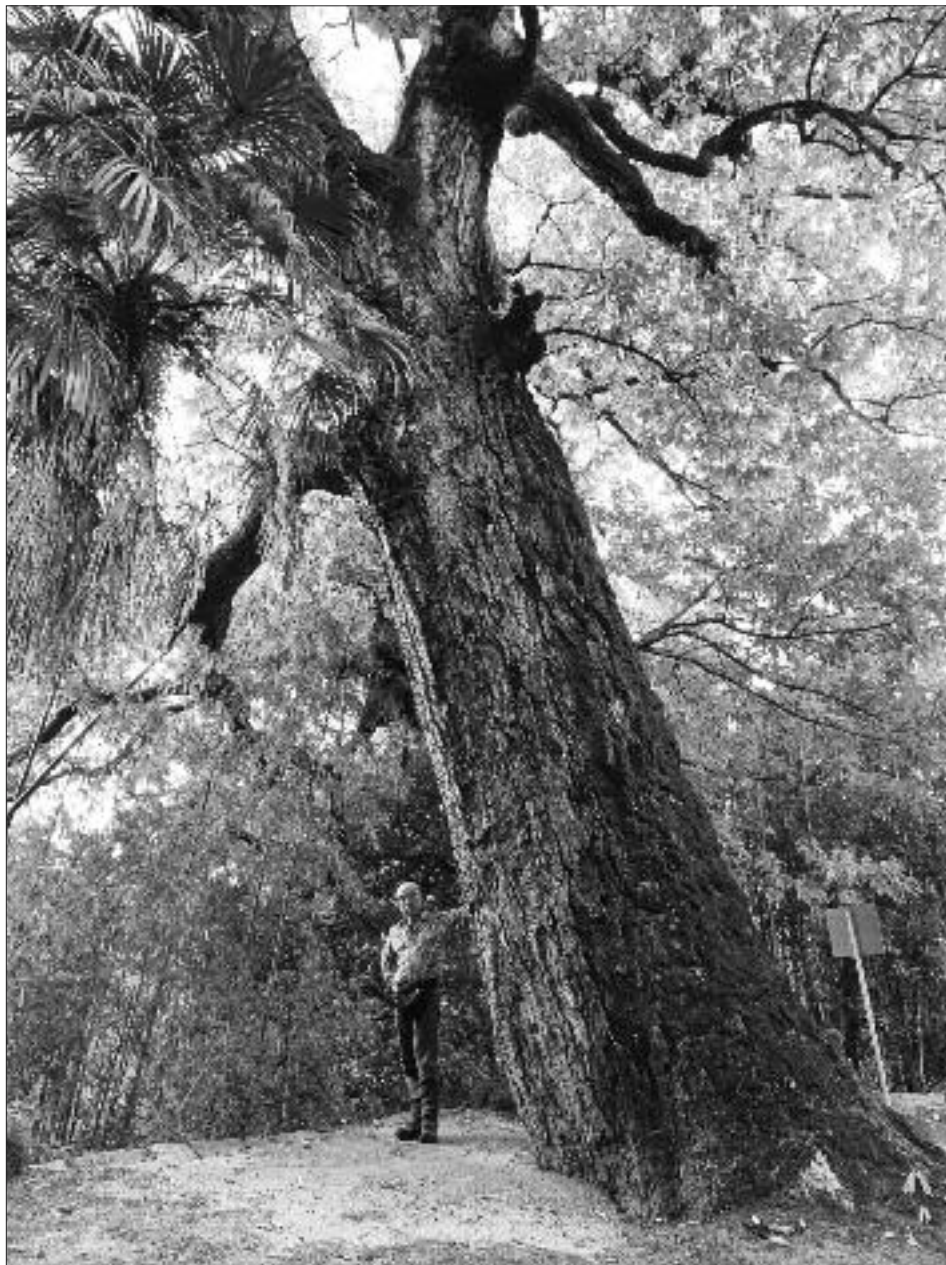


写真 AM-003
くちおおや おお
 口大屋の大アベマキ

大屋町の高原にある自然公園内に立つ。鹿除けのためか、ネットが巻かれている。幹周はこの上からの測定で少し大きく出た。



写真 AM-004
かみくまたに
 上熊谷の大マキ
 (写真・Web画像)



▲写真 AM-005 ^{えきびょうさま}疫病様のマキ

集落の高台にある厄神宮の御神木で、社殿の前に斜上して立つ見事な単幹樹。クヌギと誤認された事もある。

▼写真 AM-008

^{ゆき}湯木のアベマキ

(写真・Web 画像)



▼写真 AM-009

^{だいしょうぐん}大將軍神社のアベマキ

(写真・Web 画像)



▲写真 AM-006

^{ながの}永野天神社のアベマキ

(写真・石田徹)



▲写真 AM-007

^{ひなた}日向のアベマキ

(写真・Web 画像)

▼写真 AM-010

^{しろやま}城山八幡宮の連理のアベマキ

(写真・Web 画像)



9-F クヌギ(栲)の巨木

ブナ科コナラ属
Quercus acutissima

■クヌギの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 7m 以上の単幹樹、同等評価のクヌギの巨木。
- B 幹周おおむね 4~7m の単幹樹、同等評価のクヌギの巨木。
- C B 評価以下のクヌギ巨木。

■主なクヌギの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	阿弥陀堂のクヌギ 写真 KN-001	5.0m	26m	秋田県大仙市清水字下黒土 1281	市
B	新保豊田神社のクヌギ 写真 KN-002	4.0m	15m	長野県中野市新保字西屋敷 476	市
C	鞍掛けクヌギ 写真 KN-003	2.9m	20m	熊本県阿蘇郡産山村大字大利	なし
C	沢田のクヌギ 写真 KN-004	3.8m	20m	青森県十和田市沢田字野倉沢	県
C	宮久保のクヌギ 写真 KN-005	M3.33m(0.5m 2008)	15m	山梨県韮崎市穂坂町宮久保 4038	市



▲写真 KN-001 阿弥陀堂のクヌギ
(写真・Web 画像)



▲写真 KN-002
新保豊田神社のクヌギ
(写真・石田徹)



▲写真 KN-003
鞍掛けクヌギ
(写真・Web 画像)



◀写真 KN-004
沢田のクヌギ
(写真・石田徹)



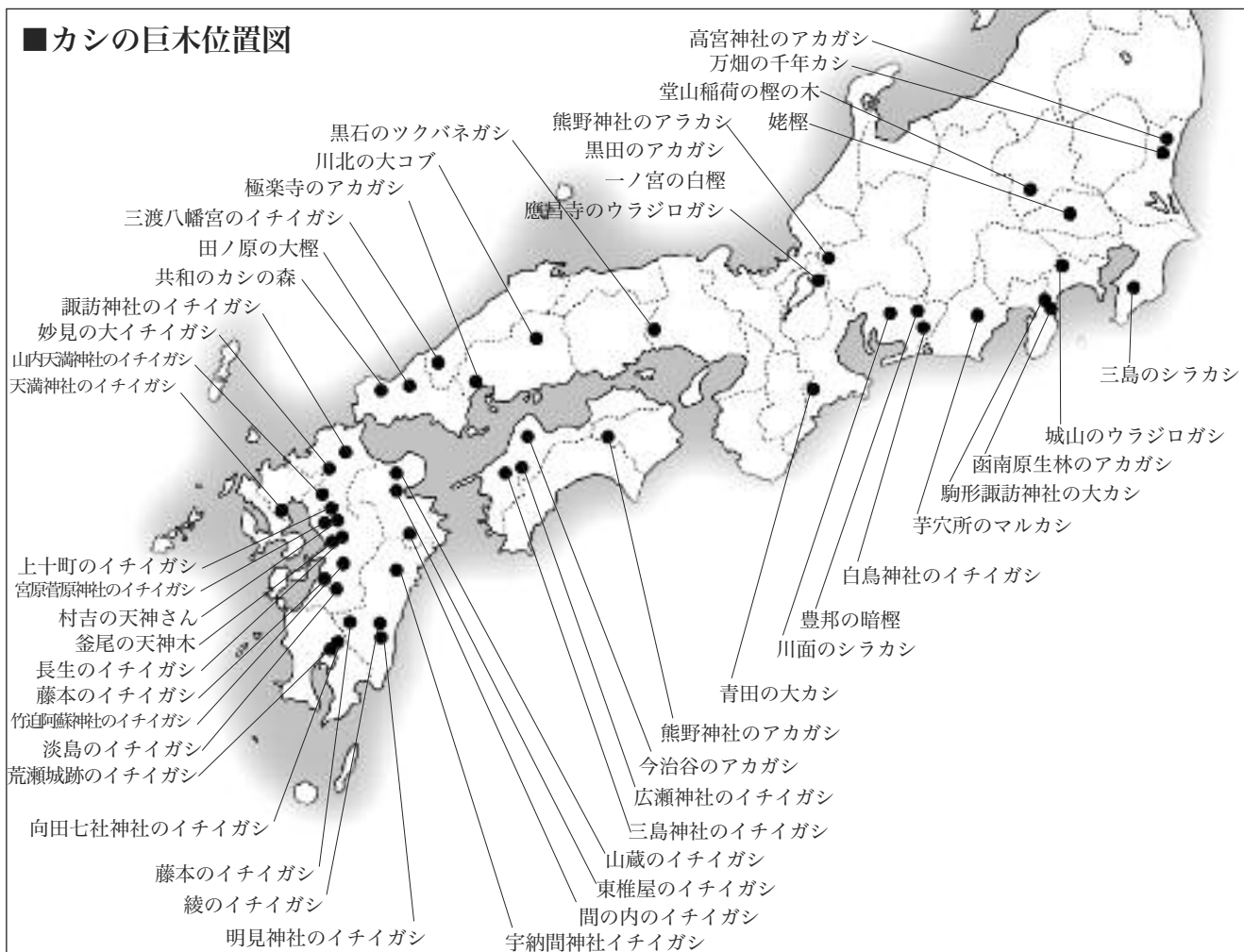
◀写真 KN-005
宮久保のクヌギ
住宅地の道路沿いの交差点に立つ。1.5m で主幹は大きく 2 分岐し、Y 形状になって立上がる。

9-G カシ(櫟)の巨木 ブナ科コナラ属 Quercus

■カシの巨木評価基準

- A 幹周おおむね9m以上の単幹樹、同等評価のカシの巨木。
- B 幹周おおむね6~9mの単幹樹、同等評価のカシの巨木。
- C B評価以下のカシ巨木。

※コナラと同様のドングリの実を付ける樹種であるが、カシは常緑樹である。巨木となるものに、イチイガシ、ツクバネガシ、アカガシ、シラカシ、ウラジロガシ、アラカシがある。巨木学では、これらをカシとして分類する。



■主なカシの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	豊邦の暗櫟 写真 AG-001	M11.5m(分岐 0.5m 2012)	15m	愛知県北設楽郡設楽町豊邦字豊詰	なし
B	極楽寺のアカガシ 写真 AG-002	7.7m	20m	広島県廿日市市市原	市
B	中坪のかしの木 写真 AG-003	M7.9m(分岐 0.3m 2008)	20m	岐阜県恵那市三郷町佐々良木	市
B	青田の大カシ 写真 AG-004	M7.5m(上部 1.3m 2007)	20m	三重県松阪市飯高町青田	市
B	熊野神社のアカガシ 写真 AG-005	7.4m	21m	徳島県三好市山城町下名日浦	市

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
B	黒田のアカガシ 写真 AG-006	M7.3m(1.3m 2008)	22m	滋賀県長浜市木之本町黒田字大沢	なし
B	姥榿 写真 AG-007	M6.09m(1.3m 2012)	15m	埼玉県比企郡ときわ町梶平	なし
B	滝岡温泉神社のアカガシ 写真 AG-008	6.2m	21m	栃木県大田原市滝岡	市
B	駒形諏訪神社の大カシ 写真 AG-009	6.2m	28m	静岡県三島市山中新田	県
B	芋穴所のマルカシ 写真 AG-010	6.1m	17m	静岡県藤枝市瀬戸谷字芋穴所	県
C	函南原生林のアカガシ No.2 写真 AG-011	5.4m	16m	静岡県田方郡函南町桑原字大樹林	なし
B	今治谷のアカガシ 写真 AG-012	6.3m	25m	愛媛県松山市川の郷町今治谷	市
C	高宮神社のアカガシ 写真 AG-013	M4.37m(1.3m 2015)	25m	茨城県常陸太田市西河内上町	県
B	間の内のイチイガシ 写真 IG-001	M9.96m(1.3m 2007)	18m	大分県豊後大野市清川町左右知	村
B	上十町のイチイガシ 写真 IG-002	M8.5m(1.3m 2009)	33m	熊本県玉名郡和水町上十町	県
B	東椎屋のイチイガシ 写真 IG-003	8.4m	30m	大分県宇佐市安心院町東椎屋	町
B	長生のイチイガシ 写真 IG-004	8.2m	23m	熊本県上益城郡御船町田代	町
B	山蔵のイチイガシ 写真 IG-005	8.2m	24m	大分県宇佐市安心院町山蔵	県
B	三島神社のイチイガシ 写真 IG-006	8.0m	17m	愛媛県大洲市肱川町宇和川	県
B	淡島のイチイガシ 写真 IG-007	8.0m	30m	熊本県球磨郡山江村万江	村
B	天満神社のイチイガシ 写真 IG-008	7.2m	30m	佐賀県嬉野市塩田町大字久間丁	なし
B	妙見の大イチイガシ 写真 IG-009	7.2m	25m	福岡県朝倉市上秋月	市
B	村吉の天神さん 写真 IG-010	M6.7m(2.3m 2009)	15m	熊本県菊池市泗水町吉富	市
B	広瀬神社のイチイガシ 写真 IG-011	7.1m	30m	愛媛県喜多郡内子町本川	県
B	綾のイチイガシ 写真 IG-012	6.7m	18m	宮崎県東諸県郡綾町北俣	県
B	三渡八幡宮のイチイガシ 写真 IG-013	6.5m	34m	島根県鹿足郡津和野町池村	町
B	明見神社のイチイガシ 写真 IG-014	6.5m	18m	宮崎県東諸県郡綾町入野	町
B	向田七社神社のイチイガシ 写真 IG-015	6.5m	30m	鹿児島県霧島市霧島川北	町
B	釜尾の天神木 写真 IG-016	6.4m	26m	熊本県熊本市北区釜尾町	市
B	竹迫阿蘇神社のイチイガシ 写真 IG-017	6.3m	25m	熊本県下益城郡美里町豊富	町

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
B	白鳥神社のイチイガシ 写真 IG-018	M6.8m(上部 0.5m 2015)	35m	愛知県新城市愛郷桑原字恩原	なし
B	荒瀬城跡のイチイガシ 写真 IG-019	6.2m	20m	鹿児島県霧島市隼人町西光寺	町
B	霧島岑神社のイチイガシ 写真 IG-020	6.0m	22m	宮崎県小林市細野	なし
B	高座神社のイチイガシ 写真 IG-021	5.75m	28m	鹿児島県霧島市国分川原	県
B	宮原菅原神社のイチイガシ 写真 IG-022	5.9m	26m	熊本県熊本市北区植木町宮原	市
B	諏訪神社のイチイガシ	6.2m	27.5m	福岡県田川郡添田町中元寺	県
B	山内天満神社のイチイガシ	6.2m	15m	福岡県八女市山内	市
倒木	共和のカシの森 写真 IG-023	7.0m	33m	山口県美弥市秋芳町青景字森ヶ谷	国
枯死	宇納間神社のイチイガシ	7.75m	35m	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷区宇納間	なし
伐採	藤本のイチイガシ 写真 IG-024	8.0m	31m	熊本県八代市坂本町藤本	
B	万畑の千年カシ 写真 SK-001	7.2m	不明	茨城県常陸太田市赤土町	なし
C	一ノ宮の白樫 写真 SK-002	株周 M10.3m(上部 0.2 2008)	18m	滋賀県長浜市木之本町大音	なし
C	堂山稲荷の樫の木 写真 SK-003	5.0m	15m	群馬県富岡市一ノ宮	なし
C	川北の大コブ 写真 SK-004	6.2m	25m	広島県庄原市川北町 川北八幡神社	なし
倒木	川面のシラカシ 写真 SK-005	8.0m	31m	愛知県豊田市川面町大屋敷 23	市
B	熊野神社のアラカシ 写真 AK-001	M6.67m(1.3m 2015)	25m	岐阜県揖斐郡揖斐川町春日美束種本	県
B	黒石のツクバネガシ 写真 TG-001	M6.5m(1.3m 2009)	18m	兵庫県赤穂郡上郡町旭日乙	町
B	三島のシラカシ 写真 SG-001	7.27m	15m	千葉県君津市豊英 504	県
B	城山のウラジロガシ 写真 SG-002	株周 8.4m	20m	神奈川県相模原市緑区中沢	なし
B	應昌寺のウラジロガシ 写真 SG-003	M8.75m(1.3m 2009)	18m	滋賀県伊香郡西浅井町塩津中	なし
B	田ノ原の大樫 写真 SG-004	6.2m	20m	山口県萩市佐々並田ノ原	市



写真 AG-001 日本一のカシ とよくに くらがし 豊邦の暗樫

樹種はアカガシ。確認されたのが平成 16 年で、文化 12 年(1815)の村絵図にクラガシと記載されていた古木。根元近くより大小 7 分岐し、扇を広げたような樹形をしている。谷側は急斜面のため、幹周の測定は困難で、道具が必要。根元近くの最もくびれた部分が幹の大きさを示している。標識は無く、林道へ入ってしばらく登った標高 560m 辺りの尾根筋にある。山側の南幹は倒れ、中心部はかなり腐食が進んでいる。北幹は谷側に大きく幹を伸ばし、こちらは健全だ。分岐幹であるが、巨大さを現在も残しているため、日本一に選定した。



写真 AG-002 ごくらくじ 極楽寺のアカガシ

極楽寺は標高 700m 近い山頂に建つ山寺で、アカガシは社務所の横に立つ。主幹は空洞化し、満身創痍で生きている。(写真・Web 画像)



写真 AG-003 なかつぼ 中坪のかしの木

佐々木家の裏手、山の斜面に立つ。同家の守護神。地上 1.3m で大きく 2 分岐し、西側には若い幹が立上っている。分岐幹はそれぞれ 5 分岐し、大きく枝葉を広げ、ほとんど損傷がない元気なアカガシである。

▼写真 AG-004 おおだ おお 青田の大カシ

樹種はアカガシ。国道から少し登った廃屋の裏手の山に立つ。2m で大きく 3 分岐し、中心の幹は破損、主幹は空洞化して、樹勢は弱っているようだ。





▲写真 AG-005
くまの
熊野神社のアカガシ
(写真・石田徹)

写真 AG-006▶
くろだ
黒田のアカガシ
民家の裏手を登ると尾根筋に立つ。この地方の野神様で、毎年8月17日に、樹下で豊作を祈る神事が行われている。

▼写真 AG-007
うばっかし
姥櫓

山深い山中にある天然アカガシで、地元では「うばっかし」と発音する老樹である。根元から大きく左巻に振れて立上がり、巨大な二本の幹が水平に伸びる。山の神として守られてきた。



▲写真 AG-008
たきおか
滝岡温泉神社のアカガシ
(写真・Web 画像)



写真 AG-010▶
いもあなど
芋穴所のマルカシ
林道は通行止めで、「鼻崎の大杉」から参道を登り、1.4kmの山中に立つアカガシの巨木。
(写真・Web 画像)

◀写真 AG-009
こまがた
駒形諏訪神社の大カシ
拝殿に向かって左手に立つ樹勢のよい単幹アカガシである。
(写真・Web 画像)





▲写真 AG-011

かんなみ

函南原生林のアカガシ

原生林の「学習の道」に3本のアカガシの巨木があり、No.2のアカガシで、入り口近くに立つ。

(写真・Web画像)



▲写真 AG-012

いまぼりだに

今治谷のアカガシ

三本杉のある新宮神社より山道を30分程登った山中に立つ天然アカガシ。

(写真・Web画像)



▲写真 AG-013

たかみや

高宮神社のアカガシ

山の中にある神社入り口に立つもので、巨木DBの幹周5.4mは、側幹を合計したものか？



写真 IG-001

まのうち

間の内のイチイガシ

巨木DBの幹周12.0mで、日本一のカシと言われたが、測定方法不明。現在は枯死寸前の状態。「左右知のイチイガシ」とも言われる。主幹は空洞化して、内部に石祠が安置されている。地元の山の神である。

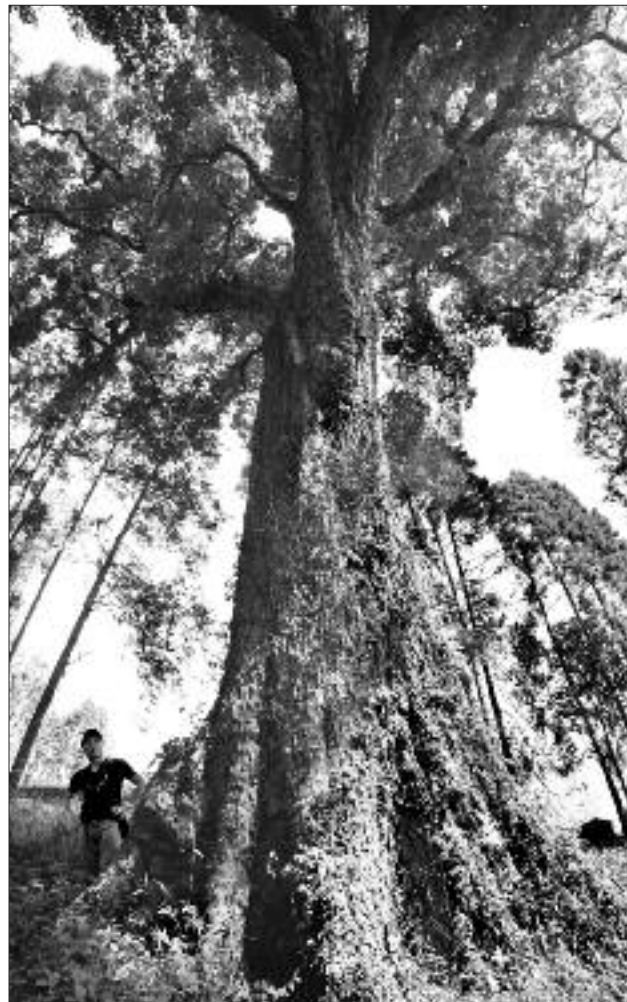


写真 IG-002

かみじつちょう

上十町のイチイガシ

集落の正面山手に頭上高く聳える大木。見事な単幹カシノキで、熊野三社大権現の本堂左手の斜面に立つ。地上10mで2分岐し、枝張りは東西33m、南北30mという巨大なもの。イチイガシとしては日本最大級としてよい。



▲写真 IG-003
ひがししいや
東椎屋のイチイガシ
 (写真・Web 画像)



▲写真 IG-004
やまはえ
長生のイチイガシ
 玉来集落から谷間に入った山の中にある見事なイチイガシ。斜面に立ち、根元が大きく広がり、地上6mで大小3分岐し、大きく枝葉を広げている。(写真・Web 画像)



▲写真 IG-005
やまぞう
山蔵のイチイガシ
 台風で大枝が折れ、見事であった樹形が損なわれたが、それでも素晴らしいイチイガシの巨木である。(写真・赤司裕宣)



▲写真 IG-006
みしま
三島神社のイチイガシ
 (写真・石田徹)



▲写真 IG-007
あわしま
淡島のイチイガシ
 球磨川の支流万江川のほとりに淡島神社があり、境内奥に立つ全国有数のイチイガシである。(写真・Web 画像)



▲写真 IG-008
てんまん
天満神社のイチイガシ
 拝殿の手前に立つ単幹カシの巨木で、主幹が縦に割れた原因は落雷か。(写真・Web 画像)



◀写真 IG-009
みとうけん
妙見の大イチイガシ
 小原集落の中程にある白木神社の境内に立つ。単幹の見事なカシノキ。(写真・石田徹)



▲写真 IG-010
むらよし てんじん
村吉の天神さん

樹種はイチイガシ。地元では「天神さん」と呼び、崇敬してきた。かつて村吉小学校があり、根の空間は子供達の格好の遊び場であった。異例の根上り樹形で、株周M25m(1.0m)という事になるが、これは実感できない。もともとの幹は、1m上がった根の上から測定した部分で、M6.7m(2.3m)である。このような樹形の巨木は、全国の巨木の中でも唯一の存在で、貴重である。



▲写真 IG-011
ひろせ
広瀬神社のイチイガシ
(写真・巨樹巨木巡礼 HP)



▲写真 IG-012
おや
綾のイチイガシ
(写真・Web 画像)



▲写真 IG-013
みわた
三渡八幡宮のイチイガシ
(写真・石田徹)



▲写真 IG-014
みょうけん
明見神社のイチイガシ
(写真・Web 画像)

▼写真 IG-015
むこうだんなしや
向田七社神社のイチイガシ
(写真・Web 画像)



◀写真 IG-016
かまお てんじんぎ
釜尾の天神木
(写真・Web 画像)

(写真・Web 画像)



▼写真 IG-017
たけのさこ
竹迫阿蘇神社のイチイガシ



▲写真 IG-018
しらとり
白鳥神社のイチイガシ

神社の背後、山側の斜面に立つ見事なイチイガシ。4mで2分岐し、社殿側の幹は頭上を大きく覆い、直立する主幹は天高く聳える。根元には山の神を祀る小祠があり、地元の崇敬を集めている。



▲写真 IG-021
たかくら
高座神社のイチイガシ

社殿近くに立つ見事な単幹樹である。幹周4.3mのナギもある。(写真・Web画像)



▲写真 IG-019
あらせじょうあと
荒瀬城跡のイチイガシ
(写真・巨樹巨木巡礼HP)

▼写真 IG-022
みやばるすがわら
宮原菅原神社のイチイガシ
(写真・石田徹)



▲写真 IG-020
きりしまみね
霧島岑神社のイチイガシ
境内にカシの巨木が数本あり、最大木は参道入り口に立つ。主幹上部は切断されている。
(写真・石田徹)



▲写真 IG-023
きょうわ
倒木・共和のカシの森

2008年2月倒木(写真・Web画像)
枝張りは東西34m、南北35mというイチイガシとしては最大級の樹冠を誇って、森の様に見えた事による。大蛇が棲むとも言われ、「蛇の森」とも呼ばれていた。惜しまれる。

◀写真 IG-024
ふじもと
伐採・藤本のイチイガシ

球磨川を見下ろす川岸に立っていたが、台風により倒壊の危険があり、伐採された。(写真・渡辺典博)



◀写真 SK-001
まんばた せんねん
万畑の千年カシ
赤土町の山林内に
立つシラカシの古木。
(写真・Web画像)



▲写真 SK-002
いちのみや しらかし
一ノ宮の白樫

一ノ宮神社の御神木で、一ノ宮橋のたもとに立つ。根元で2分岐し空洞があるが、かつては一体化していたもの。野神として祀られているという。



◀写真 SK-003
どうやまいなり かし
堂山稲荷の檜の木
(写真・Web画像)



▲写真 SK-004
かわきた
川北の大コブ

八幡神社の裏手、山の斜面に立つシラカシで、根元近くに巨大なコブができた珍しいもの。(写真・Web画像)



◀写真 SK-005
かわもて
倒木・川面のシラカシ
2001年8月倒木
(写真・原一興)



▲写真 TG-001
くろいし
黒石のツクバネガシ

地元の豪族の守護神として祀られる御神木。根元に五輪塔が安置されていたが、2009年崩れていた。地上1.8mで大小7分岐し、大きく放射状に枝葉を広げている。

▲写真 AK-001
くまの
熊野神社のアラカシ

神社参道石段の右手斜面に立ち、主幹は枯れて空洞化、側幹が生きている。

▼写真 UG-002
しろやま
城山のウラジロガシ

地元では日本一のウラジロガシ。根元で3分岐する樹形のため、株周表記となり、巨大感はない。(写真・Web・木々の移ろい)



◀写真 UG-001
みしま
三島のシラカシ

樹種はウラジロガシである。(写真・Web 画像)

▼写真 UG-004
たのほら おおかし
田ノ原の大樫
(写真・Web 画像)

▼写真 UG-003
おうしやうじ
應昌寺のウラジロガシ

無住の寺院参道山側に立ち、主幹は巨大だが、荒れている。

